

第 11 章

スリランカ紛争史年表

荒井 悦代

はじめに

本章では、「1983 年以來続く民族紛争」と表されるスリランカの紛争について、植民地期からさかのぼって年表を作成した。スリランカの民族問題は、爆弾テロや数百人死亡といった衝突ばかりに注目が集まりがちであったが、ここでは、80 年代以降は、詳細な日誌形式をとった。その理由は、スリランカで民族問題がどのような展開を遂げたのかについて、登場するアクターの変化、アクターの性格の変化を継続的に追うことが必要と思われたためである。80 年代のインドのスリランカ民族問題への介入を取り上げた日本語の文献は少ないことも考慮した。

また、民族問題によって、スリランカの政治が変化したのではないかとの問題意識がある。スリランカでは、独立以来、2 大政党が選挙によって政権交替を繰り返しており民主的な政治が行われていた。ところが、民族問題を封じ込めようとして発動した強権によりゲリラ組織との対立が明確になり、話し合いによる解決を困難にした点が指摘できる。強権の発動・政治の変化は、ゲリラ以外の国民にたいしても何らかの影響を与えたと考えられる。

第 2 節では、年表の理解を助けるため、政治団体、自治組織、その他の団体についての名称と略語、簡単な説明を付け加えた。

第 3 節の法律関係の文書では、公開されている書簡、演説、提案およびスリランカ政府が民族紛争に対処するために行った法律制定・改正要旨説明と解説を行った。

なお、インドの地名は 1990 年代にいくつかの名称変更があったが、年表中の表記は、当時使用されていた名称を用いた。現チェンナイはマドラスと表記した。